

名古屋市立西部医療センター 消化器外科



【当院の紹介】

名古屋市立西部医療センターは、消化器腫瘍センター、小児医療センター、周産期医療センターを3本柱とし平成23年5月に開院しました。

当院は名古屋市病院局から“がん医療を支える病院”としての命を受けており、さらに愛知県から、がん拠点病院にも認定されています。文字通りがん医療についてはその診断、治療は東海地区でも有名です。

PET-CTを含む放射線診断装置や高精度放射線治療機器はもちろんのこと、現在では東海地区唯一の陽子線がん治療施設である「陽子線治療センター」での治療も行っております。

この放射線治療が加わることにより、手術療法、薬物療法（抗癌剤）、放射線療法と集学的治療が可能となっております。

【当科の特色】

豊富な経験と最新の知識、そして信頼のある臨床技術により、患者さんにとって、より良い最先端の治療を提供いたします。

当科の診療方針は、患者さん主体の治療（QOLの改善、情報提供、治療法の選択など）をこころがけ、全国的にも認められた最先端の治療を正確に、合併症なく行うことであります。治療方針は、多数の専門医による詳細なカンファレンスによって決定しています。

当科では上部消化管、下部消化管、肝胆膵いずれの癌治療はもちろんのこと、良性疾患についても積極的に取り組んでいます。特に食道癌、食道アカラシア、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニア等の食道疾患に力を入れており、これらの症例数は多いです。

病床数	500床
手術件数 (2016年)	657件